

第32号 通巻第7巻第3号

1987年5月30日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

## はじめに

田畑の畦に咲く草花や堤防沿いの木々には、あふれんばかりの強い光がふりそそぎ、すでに初夏の様相があちこちで感じられる時期となりました。今年度もすでに2ヶ月が過ぎ、発掘調査もエンジン全開というところです。

今回の「乙貞」は、62年度の発掘調査予定と発掘調査だよりを中心にお知らせします。

## 昭和62年度発掘調査計画

今年度の発掘調査予定は下の表となっておりますが、61年度からの継続調査もあり、例年になく数多い調査が予想されます。

遺跡名	所在地	面積	調査期間	備考
吉身西遺跡	守山町字上横枕	1300㎡	62.5～7	店舗
益須寺遺跡	吉身町字園田	2500㎡	62.5～6	施設
横江遺跡	横江町	5000㎡	62.4～7	宅地造成
杉江東遺跡	欲賀町字高橋	2700㎡	62.6～8	河川改修
下長遺跡	古高町字下長	6000㎡	62.10～63.3	工場地
古高経田遺跡	今宿町字経田	5000㎡	62.10～63.3	宅地造成
川田川原田遺跡	川田町字川原田	2000㎡	62.9～11	道路改修
播磨田東遺跡	播磨田町字八ノ坪	1000㎡	62.8～9	資材置場
杉江東遺跡	欲賀町字恩明寺	300㎡	62.6	個人住宅
下之郷遺跡	下之郷町字皆原	230㎡	62.6	店舗

## 発掘調査だより

前号で報告された大門遺跡と古高遺跡が3月末で、川田遺跡が5月末で終了しました。また、4月中には共同住宅に先立つ調査が岡遺跡で行なわれました。

## 大門遺跡発掘調査（その2）

前号（3月号）でその途上の報告をした大門遺跡発掘調査は3月10日で終了いたしました。

現地作業を概ね半分経た時点での成果として、西半調査区で鎌倉時代前期とそれに遡る時期の4棟の掘立柱建物と建物に伴う溝、土坂などの検出を挙げましたが、東半についても同様に平安時代と鎌倉時代2時期の集落跡の広がり、そして新たに古墳時代の溝跡を検出しています。2時期の集落跡としては掘立柱建物跡各1棟ずつ確認でき、平安時代の建物は大型方形の、鎌倉時代のそれは小型覆形の柱穴掘方をもって、建物跡の柱穴にも時代差があらわれています。あいにくこの大門に営まれた集落の全容まではわかりませんが、おそらく現在の大門町集落地下には、古代～中世にかけての集落跡が広がっているものと考えられる他、古墳時代前期の溝からは、手焙り型土器など出土し、同時代の集落跡が近辺に存在することがうかがわれます。

昭和55年調査で得た弥生時代後期の、今回の古墳時代前期の遺構の広がり、実態の把握は、弥生時代～中世に及ぶ集落跡である大門遺跡にとって急務であると考えられます。



東半トレンチ調査風景

## 播磨田東遺跡発掘調査

昭和62年3月初旬から播磨田町字平芝（セキスイハイムタウンの東隣）で発掘調査を実施しています。この遺跡は昭和54年に滑石の玉つくりと弥生時代中期から古墳時代中期の住居群と古墳時代後期の古墳跡が発見されており、今回の調査もこの関係が注目されていました。

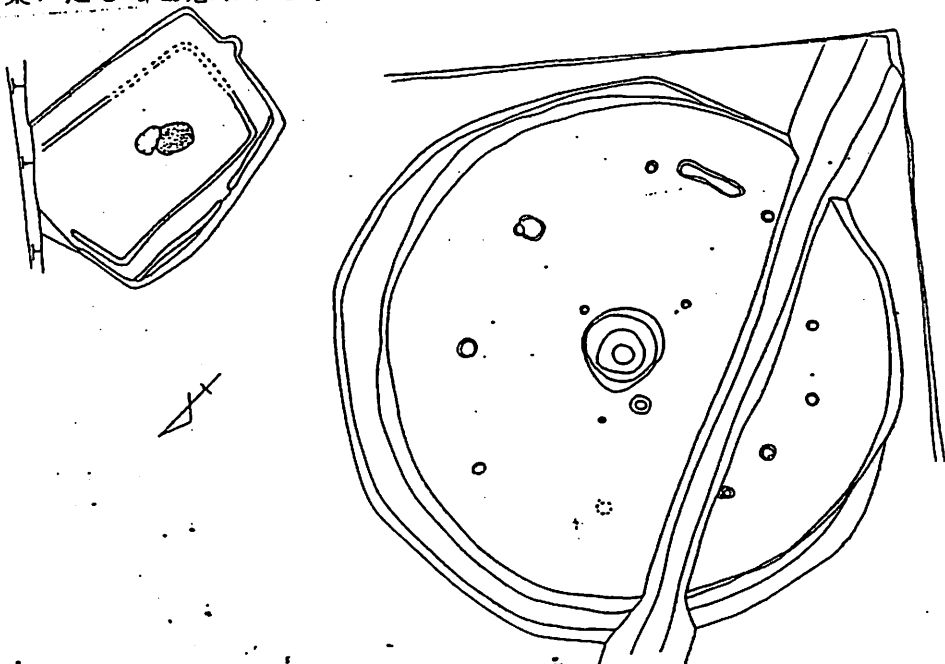
調査はほぼ半分が終わっており、4月末に終了する予定で進めています。

西半部では方墳の跡が検出され、一辺約10mの墳丘と幅2～3mの周溝が検出され、周溝内から5世紀末の須恵器の坏身、蓋、高坏の身蓋のセット、中型カメなど合計16点ほど出土しています。この古墳は隣接地で4基が発見されたものとほぼ同時期で数基が集まって古墳群をつくっていたと考えられます。

なおこの古墳が造られるまでに弥生時代中期～後期の竪穴住居や土坑があって古い村が営まれており、円形住居は直径約8mほどで2棟があり、長方形1棟、方形1棟が確認されています。古墳時代中頃の住居もあってやや長方形状となっており、3、2m×4mの大きさです。

東半部ではやはり弥生時代の大型竪穴住居があり、直径約10mを測り、深さも約70cmと極めて残りの良い住居です。

以上の成果は途中ですが、弥生時代の遺構は更に東にのびる傾向があり、ハイムタウンの中央あたりから東に約200mほどは集落として広がるものと思われます。また古墳時代のムラは現在の調査地あたりが東限で、ムラの東端に古墳を築いたものと思われます。



## 益須寺遺跡発掘調査

栗東・大津線（琵琶湖大橋取付道路）と東海道本線の交差点を中心とする地域一帯には益須寺遺跡が分布しており、この道路、鉄道で4分割された西四半に残る水田地を現在調査しています。益須寺遺跡は、「日本書紀」にみられる寺院の名に由来するものですが、現在正確な所在地は明らかではなく、寺院建立に供されたと考えられる瓦が僅かに見つかった程度で、今後多くの課題を残す遺跡の1つでもあります。

さて調査は4月末より開始され、調査工程の過半をえています。その時点での成果として、200穴余りのピットと、掘立柱建物1棟を検出しました。建物は3間以上×3間以上の規模となり、平安時代に構築されたものと推察できます。

調査は残り半分の面積を残して、より濃厚な成果が見込まれます。次号で調査の全容を報告できるものと考えています。

## 川田遺跡現地説明会

川田遺跡では5月23日に現地説明会が開催されました。川田遺跡では幻の村「合村」の一部が検出され、1月に現地説明会を開き、多数の見学者がありました。今回も天候不順にかかわらず前回同様大勢の方が見学にこられました。特に馬型埴輪と人物埴輪は市内でも初出土品として注目を浴び、説明が終わった後も目を凝らして見る方もありました。



**あとがき** 日中は30度近くになる日がふえ不断の色黒が一層黒くなる時期ですが、夜はまだまだすこしやすくほっとする一時を与えてくれます。